

市立病院に開設される緩和ケア病棟を視察してきました



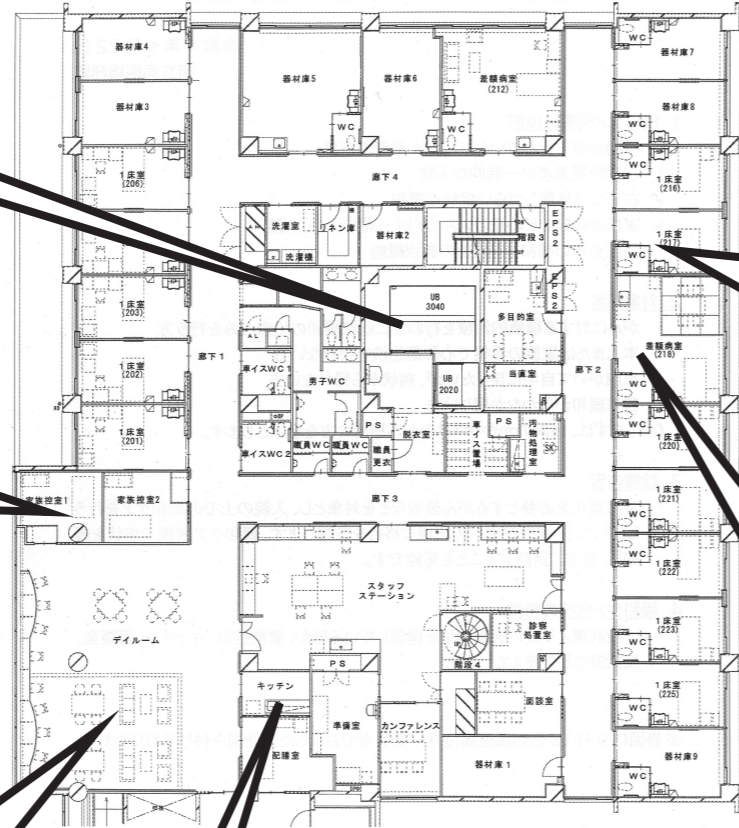
浴室はふたつあります。



家族控室。家族が泊まり込むこともできます。



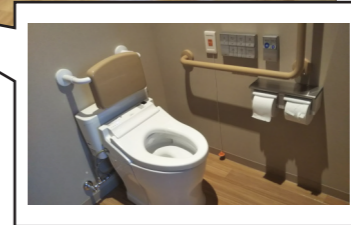
デイルームです。大型テレビや電子ピアノもありました。



患者や家族が使えるキッチン。



病室は通常の病室よりゆったりとしています。洗面台もついていて、半分の病室にはトイレもありました。



差額室です。かなりグレードは高い感じです。簡単な流し台、電子レンジ、冷蔵庫も備えています。この写真は和室タイプですが、ソファの洋室も各1室あります。



市立病院の精神科棟の2階に、がんの末期などで、積極的な治療を行わず痛みの緩和や穏やかな療養を支える「緩和ケア病棟」が開設されます。開設直前の施設を、議会の民生福祉常任委員会で視察しました。非常に設備の整った病棟で感心しました。

当面、医師は1名、看護師15名、医療クラーク1名での出発で、病床は14室。全てが個室です。将来は、医師を複数体制にして、20床まで拡大することを考えています。

他の病棟と違い、家族が宿泊して看病や看取りをすることも、キッチンを使って料理をして、一緒に食事をとることもできます。終末期の医療の病棟ですので、様々な工夫が見られます。しかし、課題は費用でしょうか。入院治療費は定額で、一日3割負担の人で、1万5千円ぐらい、1割負担の人でも5千円。すぐに高額療養費の限度額を超えます。もちろん、保険で見られない部分もありますし、差額室を利用すれば、一日1万1千円の追加負担もかかります。

ていることです。黒字で基金が積み上がるということは、支出に対して保険料をもらいすぎているということにほかなりません。万が一に備えて基金そのものは必要ですが、それにしても「ため込みすぎ」です。

基金を活用して、それぞれ保険料を引き下げるように求めました。

R3年度の決算審査から・・・

一般会計の福祉予算や国保会計と介護保険会計などの決算審査に参加しました。私が参加した分科会では、質疑の大半は私がしたもので、他は1名が一項目を質問しただけでした。

さて、とても気になったのが、国保で12億円、介護保険では18億円も基金が積み上がっ